

おすすめ支援具の紹介

以下に、指導におすすめの自作の支援具を紹介します。簡単に作れるものばかりを紹介しています。バリエーションを示しているものもありますので、そちらも参照してください。

支援具	ねらい	説明
 <p style="text-align: center;">足型マーク</p>	<ul style="list-style-type: none"> 立つ位置の理解 集団行動（集会参加など） 	<p>どこに立てばよいのか、どこに立って待てばよいのかを示します。これがあることで、自分からそこに行って、待っていることができるようになった子どももいます。</p> <p>左下の写真は、黒地にくつの形を白抜きにしたものです。</p>  <p>くつを脱ぐところ、あるいは脱いだくつの置き場所を示します。これがあるおかげで、脱ぎ散らかさなくなりました。</p> 
 <p style="text-align: center;">声メーター</p> <p style="text-align: center;">※型紙を掲載</p>	<ul style="list-style-type: none"> 声の大きさの調節 声の速さの調節 	<p>声の大きさを目で見てわかるように工夫しました。数字で声の大きさを調節できるように練習しました。30の声は小さい声、80の声は大声、50～60がちょうどよい声にしました。右下の写真は、CD ケースに入るようにした個人用です。CD ケースを反対側に折り、対象の子どもの机の上に立てて使います。</p> <p>同じように、声の速さメーターも使っています。特に、声の大きさメーターは、小学校の低学年のクラスでも効果を発揮しているようです。</p> 
 <p style="text-align: center;">活動手順書</p> <p style="text-align: center;">※例題を掲載</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動手順を知ること 約束を決めること 活動への見通しを持った参加 	<p>活動をする際の手順書です。どのようにすればよいのか、守らないといけないことは何かを絵と文字で伝えます。校外学習などの事前の学習で用いたり（守らないといけないことを決めたりします）、その活動の際に持って行きます。「スーパーでの買い物学習」、「ボーリング場に出かけてのボーリングゲーム」、「電車でお出かけ」の3つの例をホームページ内に別に示していますので、参照してください。</p>
 <p style="text-align: center;">職員の顔写真入り名札</p>	<ul style="list-style-type: none"> 先生を意識すること 名前を読むことでの話しかけ 	<p>職員の名札は顔写真入りです。その下に「〇〇せんせい」と書いてあります。自閉症児の場合、10歳ころまでは視線が低い可能性が考えられます。そのために、職員の顔写真を児童の視線の高さである胸あたりにつけています。また、字を読んで「〇〇せんせい」と言う児童には、職員は返事を返してあげます。自閉症児の心理特性から無理に職員の顔は見ないでいいよ（見上げなくてもいいよ）、自分の視線の高さで相手の先生を意識すればいいよ、という考え方はです。</p>



カラオケ歌詞テレビ

※例題を掲載

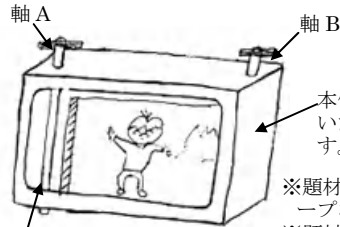
- 歌を歌う活動への参加を促すこと
- 歌（の内容）を目で見て楽しむこと

歌詞に沿って絵が描いてあり、歌に合わせて、絵がかわっていきます。歌詞の文字も絵の下に書いてあるものもあります。よくあるのが、歌全部の歌詞を模造紙に書いて、それを見せながら歌を歌うこと。文字で書かれた模造紙の歌詞カードでいったい何人の子どもが歌えるのでしょうか。

「いっしょに歌いましょう」では何をしてもよいのか分りにくい子どもたちも、この支援具（教具）があると、絵が動いていくので、視線を集中させて見えています。歌に合わせて、絵の巻物を巻いていくのがちょっとたいへんで、作者としてはもう一工夫しなければ、と思っています。

テレビの本体は、WISC-Ⅲ検査器具の空箱です。B4 サイズの紙を使った場合に、ちょうどよい大きさです。

軸 A を回して、絵を巻き取っていく。リピートは軸 B を回す。



本体は、WISC-Ⅲ検査具が入っていた空箱がちょうどよい大きさです。

※題材の絵は、軸 A と軸 B にガムテープなどで固定する。

※題材の紙（絵と歌詞がかいてある）は、B4 サイズを横向きで使う。

前面を B4 の大きさにくり抜く。



スタート合図

- やり方が見てわかること

体育の時間に、「ヨーイ、ドン！」で走る際、「こうやってするんだよ」と模範を見せる場合もあると思います。でも、模範は「動画」ですから、すぐに消えてしまいます。この「スタート合図」の図があれば、スタートのやり方が「静止画」で残ります。じっと見ることで、どうすればよいのかが分かりやすくなります。通常の「ヨーイ、ドン！」なら必要ないかもしれませんが、これに慣れておくと、座位からの「ヨーイ、ドン」、伏臥からの「ヨーイ、ドン」なども、やり方を絵を見て確認しながらできます。

下の写真のように、子どもには、「ヨーイ」で左側の絵を示し、「ドン！」で開いて、右側の絵を見せます。



「ヨーイ」



「ドン！」